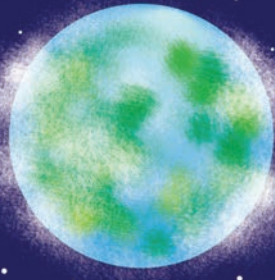


杉並区政レポート

惑星



杉並区議会議員 脇坂たつや

●事務所(自宅)
〒166-0004 杉並区阿佐谷南3-27-10
TEL. & FAX.3391-7717
●区議会控室
〒166-0004 杉並区阿佐谷南1-15-1
TEL.3312-2111(内線2307)

ブログ



発行日 2011.3 vol.2

一般質問 ～若者世代への杉並区の対応について～

現在、杉並区には54万人の区民が在住し、中でも若者世代は18万人にのぼります。この数字は、実に全区民の1/3となり、東京都23区の統計でも3番目に若者の占める割合が多い区なのです。いつの時代も、若者は次世代の核になる存在です。また、万が一の震災等の緊急対応時にも、マンパワーとして最も役に立ってくれることでしょうか。今般のように高齢化社会が進んでいく状況において若者世代が多いということは頼もしい限りです。しかし、現状に満足することなく、引き続きこの世代の方に住み続けて頂くことが将来の杉並区にとって重要です。また、ただ住み続けるのではなく、日頃から地域と若者世代が密な関係を築き、いざという時に備えておくことが日頃から求められます。そのためにも区は“若者が住み続けたい”と思う施策に取り組むべきだと考え、質問を致しました。

- Q. そもそも杉並区は若者世代をどのように捉えているのか。**
- A. 若者世代が定着し、地域社会を支えていく核となることは重要なテーマである。
- Q. 若者世代の行政ニーズをどのように汲み取り、施策を展開したのか。**
- A. 区民意向調査等で把握に努め、区政への参画、地域活動への参加等に取り組んだが、不十分な面もあった。新たな基本構想策定の中で若者世代への総合的な対策を検討する。
- Q. 長寿応援ポイント事業を拡大し、若者にも適応すべきと考えるかどうか。**
- A. 制度の趣旨から別枠で考えるべきで、地域社会で力を十分発揮できる対策を検討する。

議会改革の一環として、議会版「事業仕分け」を実施しました!!

去る12月22日、交渉会派「新しい杉並」による、議会版「事業仕分け」が実施されました。今回の取り組みは議会改革の一環として試行的に行いました。国政や、先日杉並区としても実施した「事業仕分け」は、行政が主導しているものです。しかし、本来税金の使い方をチェックすることは議会の役割であるとの考えから、毎年度行われる決算審査に「事業仕分け」の手法を取り入れ、一つ一つの事務事業に対する審査の精度を向上させ、議会主導による行財政改革を目指そうと考え、私たちとしても実施を致しました。今回の対象事業は以下の3点です。

- ①保養のための宿泊機会の提供
- ②杉並区勤労福祉協会助成
- ③南北バスの運行

①に関しては、各施設の経営環境等が異なるため、一括ではなく、施設ごとに判定しました。

・湯の里「杉菜」→「要改善」

*金額設定に改善の余地があるため

・コニファーいわびつ→「現状維持」

*群馬県東吾妻町と友好自治体協定を締結していることも鑑み、団体客の誘致が視野に入れば、より安定すると思われるため

・富士学園→「廃止」

*冬季中は施設を閉鎖している上に、赤字の経営体質が一向に改善されないため

・弓ヶ浜クラブ→「廃止」

*敷地内に一体的に整備された南伊豆健康学園が平成23年度

をもって廃止予定のため。また、赤字の経営体質が一向に改善されないため

②に関しては、協会が実施する会員向け福利厚生事業が、他の民間団体が実施している事業と重複していることや、公益法人制度改革を受けての新制度への移行が困難なため、「**抜本的見直し**」と判定しました。

③に関しては、依然として区内には交通不便地域が存在することや、新たな運営手法の導入を求め、「**拡充**」と判定しました。

今回の判定結果は、今後の会派要望や代表質問等を通して、区政に反映出来るよう努めてまいります。ここで、私自身の所感を申し上げます。私は民主党とは異なる考え方を持っています。ですが、私達は民主党が有名にした「事業仕分け」を行いました。それは、参考にするべき点は取り入れたいと考えているからです。先入観なく、区民本位の目線で引き続き議員としての活動に取り組んでまいります。

脇坂たつやプロフィール

昭和57年 高円寺生まれ、阿佐谷育ち
平成17年 早稲田大学政治経済学部を卒業
平成17年 民間企業に就職し営業に従事
平成22年 TOKYO自民党政経塾に入塾
平成22年 自民党杉並支部の緊急公募に応募
最年少の28才で選出される
現在 文教委員会 委員
災害対策特別委員会 委員
杉並稲門会 会員

